



るもい風土資産カード

# 増毛厳島神社

貴重な文化財が奉納される  
道内随一の彫刻神社

北海道随一の彫刻神社として知られる厳島神社は宝暦3年(1753年)、増毛場所請負人となった村山伝兵衛が運上屋の守護神として「弁天社」を創建したのが始まりとされています。文化13年(1817年)には安芸国(現在の広島県)の厳島神社から分霊し、明治9年(1876年)に増毛郡総鎮守の厳島神社となりました。当時は港のそばにありましたが、明治14年(1881年)に弁天町4丁目、同26年(1893年)に現在の稲葉町に遷座されました。

新潟県の宮大工らが2年の歳月を掛けて仕上げた本殿は明治34年(1901年)の落成。総檜造り、銅版葺きの荘厳な建物で、新潟県柏崎出身の彫刻師、篠田宗吉の匠の技が随所に生かされています。周囲の壁面は中国の古典から題材をとった彫刻で、鮮やかな木目の仕上がり。拝殿前の鶴の彫刻も精巧な造りで、丹念に掘り込まれた細工の数々に目を奪われます。また、狩野派の画家、勝玉によって描かれた雲龍の天井絵の周りには増毛町出身の日本画家、平子聖龍が手掛けた格子天井絵が施され、四季の花々や鳥などが今も色鮮やかに残されています。

本殿と奉納絵馬7点は、平成30年に北海道有形文化財に指定されました。

留萌管内には他にも羽幌町天売、焼尻両島や天塩町などにも厳島神社がありますが、いずれも海から拓けた地域の氏神として祭られており、航海の安全と暮らしの繁栄を願う地域住民の精神的な支柱として大きな役割を果たしてきました。留萌で最も古い留萌神社は天明6年(1786年)の創建で、ここも海上の安全と豊漁を祈願し、安芸国の厳島神社から分霊されたものです。

## 見どころ

彫刻師、篠田宗吉は京都本願寺再建の際、副棟梁に選ばれた名工匠。新潟県柏崎から弟子2人を連れて増毛に留まり、2年をかけて完成させたと言われています。篠田宗吉が手掛けた神社は新潟を中心に多数存在しますが、増毛厳島神社は北海道では随一の彫刻神社として訪れる人を魅了しています。

## ポイント

増毛厳島神社には保食神(うけもちのかみ)と神龍宇賀之霊神(しんりゅううがのみたまのかみ)も祭神として祭られています。また、「天売島に住む白狐が身ごもり、安産祈願のため海路はるばるやってきた」という伝説から、お産の無事を祈って参拝する人もいます。

## 五感で感じる！ 風土資産の魅力



毎年7月12日から14日に開催される「厳島神社例大祭」では、「神輿保存会」の若者たちが神輿を担ぎ、町内を練り歩きます。クライマックスの本祭り夕方には畑中町3丁目通りに子供たちの暑寒太鼓が響き渡り、沿道は熱気に包まれます。



ケヤキを使用した本殿内は、荘厳な雰囲気と神社の骨組みを守ってきた古い木材の匂いを嗅ぐことができます。



全国に約500社あるとされる厳島神社の総本社は広島県厳島にあり、通称「安芸の宮島」と呼ばれています。北海道神社庁によると、この厳島神社から分霊を受けた神社は北海道だけで30社ほどあり、留萌管内は特に厳島神社が多い地域とされています。

## ■ 基本情報 (R7. 3)

文化財指定：北海道指定有形文化財  
指定年月日：平成30年3月30日  
住 所：増毛郡増毛町稲葉町3丁目38番地  
T E L：0164-53-2306  
拝 観 料：大人300円高校生以下は無料  
※拝観希望は社務所へ連絡のこと。  
(事前連絡が確実)